

山桃庵茶事研究会

創立十五周年記念茶会会記

平成二十一年五月十六日

於 茶道会館本館



ごあいさつ

創立十五周年を迎えて

山桃庵茶事研究会主宰

中山 文子

月日の過ぎ行くのが今更ながら速く感じられる昨今で
ございます。

平成十六年五月の十周年記念の茶会から、早や十五周
年を迎え、ささやかな茶会を催す運びになりました。

本日は、お出まし下さいまして有難うございます。心
から御礼申し上げます。拙い茶会ではございますが一日
ごゆるりとお過ごしいただければ幸いに存じます。

この度は、会員一同、一人ひとりが道具を持ち寄り、
各々の席の道具組みをし、それぞれにおもてなしの仕方
を考え、お客さまをお迎えすることにいたしました。そ
して、おいしいお茶を差し上げられることを念頭に本日
を迎えました。

まだまだ全てに渡って未熟でございますので、お見苦し
いことが多々あるかと存じますが、何卒、お許し下され、
暖かいご指導を賜りますよう心からお願ひ申し上げます。

十周年では、ようやく茶の道の入口に辿り着いたと述
べた憶えがございます。しかし、五年を経過した今日で
も、依然として入口でウロウロしており、道のりの遠さ、
広さ、深さに畏敬の念を覚えるばかりでございます。

これからも、会員の方々とともに、いただいた生を精
いっぱい歩み続けられればこの上ない幸せと思ってお
ります。

どうぞ今後ともご指導ご厚誼の程よろしくお願ひ申し
上げます。

会記

濃茶席 溜庵

本席掛物 堀内宗心筆横物 福寿

共箱

花入 唐物写 掛花籃

竹雲齋造

花 ときのもの

香合 松唐草マキエ竹溜香合

宗傳作

尋牛齋在判

共箱

和久田紹巴袂紗敷キテ

友湖作

釜・風炉 常什

水指 萩灰被芋頭

凌雲造

茶入 肩衝 高取焼

喜恵造

仕服 立涌笹りんどう紋

茶碗 黒茶碗 八事窯 三代

道年造

替 御本写

嘉祥造

茶杓 剛山和尚作 五月晴

共筒箱

建水 唐銅エフゴ

蓋置 妙喜庵 士延和尚作 竹引切

共箱

菓子器 縁高重

菓子

茶

濃茶席 龍庵

本席掛物 大亀老師筆一行

共箱

萬里無片雲

花入 唐銅花入 銘 今宵の主

常光造

花 ときのもの

香合 六角香合 喜寿祝記念品

而妙齋在判 共箱

即中定家紹紀袂紗敷キテ

釜・風炉 常什

水指 一重口水指 志野焼

茶入 肩衝 瀬戸 長谷窯 錦雄造

仕服 雲菱格子龍鳳文

茶碗 黒茶碗 東陽坊写 妙喜庵 士延造

替 高麗茶碗 古三島写 对州大浦陶窯 武末日臣造

茶杓 寛州和尚作 和敬 共筒箱

建水 不審庵伝来写唐銅エフゴ 宗七造

蓋置 喝堂和尚作 竹一双の内 在判 共箱

菓子器 縁高重

菓子

茶

薄茶席 山茶屋

本席掛物 高野山三宝院 草繫全弘和尚筆一行

喫茶去 共箱

花入 方円籠 祐三造

花 ときのもの

香合 四方推漆香合 達哉造

喜寿記念而妙齊字「歛」染袱紗敷キテ

友湖作

釜・風炉 常什

風炉先 ねじ梅雲砂子 逢春堂製

棚 長板 真塗

水指 波車蒔絵手桶水指 雅峰塗

宗完在判 共箱 松忠蒔絵

茶器 大棗沈金七宝紋 志芸男造

茶碗 今高麗御本手 葛芳造

替 仁清写丸紋草花

茶杓 宗心作 銘 薫風 共筒箱

建水 唐銅エフコ 宗辰造

蓋置 萩櫛目蓋置 十五代 新兵衛造

煙草盆 錦帯橋古材櫛形 誠中齋造

火入 祥瑞写 松雨造

煙管 如心齊好写筋 二代 清五郎造

菓子器 溜塗四方盆

菓子

茶

薄茶席 真の間

本席掛物 即中齊筆横物 柳縁花紅 共箱

花入 備前耳附花入 惺齊在判 共箱

花 ときのもの

香合 柳舟蒔絵色紙香合 孝也作

釜・風炉 常什

風炉先屏風 即中齊好金地銀切ハリ 在判 共箱 吉兵衛作

棚 即中齊好写好日棚 輪島塗 一齊作

水指 今高麗青磁 寿安窯 張英安作

茶器 平棗 近江八景マキエ 一光作

茶碗 弘入作 宝尽し赤茶碗 即中齊箱

銘だいこく 而妙齊在判 共箱

替 紅安南写 即全造

茶杓 即中齊作 銘 千代の友 共筒箱

建水 不審庵伝来写エフコ 淨益造

蓋置 金彩松葉ノ絵 尋牛齊箱 潤作

煙草盆 桑コリ形田葉粉盆 利齊作

火入 香炉釉三つ足火入 惺入作

煙管 如心齊好写筋

菓子器 食籠 源内焼

菓子

茶

茶

茶

茶

茶

研究会の歩み（創立十周年以降）

| 年・月 | 茶事の内容 | 実施回数と参加人数 | 勉強会 |
|----------|---------------------|-----------|--|
| 平成十六年・一月 | 炉・正午の茶事 新春の茶（初釜） | 二回 二十六名 | 二月 〈テキストの解説〉 ○箱の文化と茶道具 ○箱の格と道具の格 ○書付と銘について ○真田紐 |
| 五月 | 創立十周年記念茶会 | 総 二一七名 | 六月 〈実習〉箱の紐結び 〈テキストの解説〉 ○暮らしの中の陰陽 ○道具の取り合わせその一 花入、花入と敷板、花入の格 |
| 七月 | 朝茶 | 四回 二十七名 | 九月 〈演習〉花寄せ 〈テキストの解説〉 ○名残りについて ○茶事の心得、茶事次第 ○亭主、客のあり方。立場と責任 |
| 十月 | 風炉 正午の茶事 名残り | 四回 二十七名 | 十一月 〈テキストの解説〉 ○茶事の進行と心得 ○亭主の役割、客の役割 〈実習〉藁灰とつくり方 |
| 十二月 | 炉 正午の茶事 歳暮の茶 | 四回 二十三名 | |
| 平成十七年・三月 | 炉・正午の茶事 利休忌 | 四回 二十五名 | 二月 〈テキストの解説〉 ○利休忌について、追善の茶 ○茶道具事始 |
| 五月 | 初風炉の茶事 | 四回 二十五名 | 四月 〈テキストの解説〉 ○灰について、灰の手入れの仕方 ○灰をつくる |
| 七月 | 公開講座 | 総 一二五名 | 〈実習〉様々な風炉の灰型、その実習 一文字 丸灰 遠山灰 火入の灰 |
| | 釜の話し | | |
| | 講師 | | |
| | 釜師 三浦一孝氏 | | |
| 九月 | 風炉 正午の茶事 天然忌の茶 | 四回 二十七名 | 十月 〈テキストの解説と実習〉 ○炉灰つくり、釜の懸け合わせ ○煙草盆火入の灰、押さえ方 |
| 十二月 | 夜咄の茶事 | 四回 二十七名 | 十一月 〈テキストの解説と演習〉 |

| 年・月 | 茶事の内容 | 実施回数と参加人数 | 勉強会 |
|-----------|-----------------------|--------------------|--|
| 平成十八年・三月 | 炉、正午の茶事 雛祭りの茶 | 四回 三十名 | 勉強会 ○夜咄について。大切な事柄、重要な事項をピックアップ ○燈火の扱い ○小間(台目席)の点前 |
| 六月 | 前茶の茶事 雨中釜 | 四回 三十名 | 二月 〈テキストの解説〉 ○茶事の心得、亭主ぶり、客ぶり ○懐石のしくみ 〈実習〉千鳥の盃 四月 〈テキストの解説〉 ○露地下駄と露地傘について ○露を打つ、三露と打ち水 ○水屋の構造と道具の配置 ○釜を懸ける手順 〈実習〉風炉の灰と灰型 一文字灰 丸灰 遠山炭と蒔灰 〈テキストの解説〉 八月 ○茶会記について、自会記、他会記、古い(歴史上の)茶会記 ○茶会記の書き方、大寄の茶会 十月 〈実習〉千鳥の盃 〈テキストの解説〉 ○口切りと開炉 ○口切の茶事 ○茶壺について 〈演習〉壺飾り 〈実習〉緒の結びに関連して、箱の紐の結び、風呂敷の包み 等 〈実習〉炉の灰 保存の仕方、風炉の後始末、炉の灰づくり、 五徳のすえ方、釜の懸け合わせ、藁灰つくりと使い方 |
| 九月 十一月 | 夕去りの茶事 月影 口切の茶事 | 四回 三十二名 四回 三十三名 | 二月 〈テキストの解説〉 ○茶事の流れと役割 客ぶり、亭主ぶり、亭主と半東 〈実習〉煙草盆のしつらえ、煙草盆の火入と灰の押え方 〈テキストの解説と実習〉 四月 ○風炉の灰について ○五徳のすえ方 ○灰型(一文字、丸灰、遠山)蒔灰をつくる 六月 〈テキストの解説〉 ○道具の観賞その一 茶碗の歴史、種類、観賞 等 楽茶碗の特徴と楽家 ○花入と敷板、飾り方 等 |
| 平成十九年・三月 | 炉、正午の茶事 利休忌 | 四回 三十二名 | |
| 七月 | 朝茶 | 四回 三十二名 | |

| | | | |
|------------------|--|----------------|--|
| <p>十月</p> | <p>風炉、正午の茶事 名残り</p> | <p>四回 三十二名</p> | <p>九月 (テキストの解説) ○道具の観賞その二 道具の見識を広げる「茶人」について 〈実習〉千鳥の盃 十月 〈実習〉○炉の灰について 炉の灰と形 ○釜の懸け合せ 十一月 〈実習〉○露地と室内の灯火とその扱い ○手焙りと火鉢の灰の扱い</p> |
| <p>平成二十年・三月</p> | <p>炉、正午の茶事 陽春の茶</p> | <p>四回 三十二名</p> | <p>二月 (テキストの解説) ○道具の観賞その三 「茶杓」について用語解説、観賞の歴史 等 ○露地の打ち水 四月 〈実習〉○風炉の灰、灰の手入れ ○灰型(二文字、丸灰、遠山)をつくる ○道具の観賞その四 香合について、観賞 香合の種類とつかい方 等 八月 (テキストの解説) ○様々な棚の扱い、茶事初座の飾り方、後座の飾り方 (炉、風炉、各々の場合) ○会員からのテーマ解説「茶における源氏物語」 「志野、織部焼にみられる類型化された絵図とその意味」</p> |
| <p>平成二十一年・二月</p> | <p>炉、正午の茶事 新春の茶</p> | <p>四回 三十二名</p> | <p>三月 (テキストの解説) ○道具の取り合せその三 花入れ―花瓶から花入へ(歴史) 花入れの格(真行草)と種類 花入れの飾り方、敷板 等 ○茶道具のなかの裂地 ○名物裂地について、亡洋緞子、笹蔓緞子、定家緞子</p> |
| <p>五月</p> | <p>風炉、正午の茶事 風をテーマに</p> | <p>四回 三十三名</p> | <p>四月 (テキストの解説) ○道具の観賞その四 香合について、観賞 香合の種類とつかい方 等 五月 風炉、正午の茶事 風をテーマに</p> |
| <p>九月</p> | <p>風炉、正午の茶事 (初座〓広間 後座〓小間 を使用して</p> | <p>四回 三十二名</p> | <p>八月 (テキストの解説) ○様々な棚の扱い、茶事初座の飾り方、後座の飾り方 (炉、風炉、各々の場合) ○会員からのテーマ解説「茶における源氏物語」 「志野、織部焼にみられる類型化された絵図とその意味」</p> |
| <p>十一月</p> | <p>炉、正午の茶事 口切の茶事</p> | <p>四回 三十名</p> | <p>十月 (テキストの解説) ○道具の取り合せその二 水指しと棚について 様々な棚と好み</p> |
| <p>五月</p> | <p>十五周年記念茶会 於 茶道会館</p> | <p>四回 三十二名</p> | <p>三月 (テキストの解説) ○道具の取り合せその三 花入れ―花瓶から花入へ(歴史) 花入れの格(真行草)と種類 花入れの飾り方、敷板 等 ○茶道具のなかの裂地 ○名物裂地について、亡洋緞子、笹蔓緞子、定家緞子</p> |